

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100648		
法人名	有限会社 さとほろ		
事業所名	グループホーム さとほろ 4階		
所在地	札幌市中央区宮の森1条6丁目1-16 ラベンダー宮の森401		
自己評価作成日	平成29年10月31日	評価結果市町村受理日	平成29年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・幅広い年齢の職員が働いており、入居者の方一人ひとりを理解し、家庭的な環境・雰囲気の中で寄り添い、関わり合うことを大切に毎日の暮らしが穏やかで、楽しくなるよう努力しています。

・一人ひとりに合わせた自立支援を日々の生活の中で意識して手作業や体を動かす時間をつくり、今できる事に注目して取り組んでいます。

・食べることを大切に考え、農家から直接届く合鴨農法のお米、自然食品の味噌や調味料、菜園で採れた無農薬野菜など地元の食材にこだわり家庭的で美味しい食事の提供に努めています。

・入居された方の終の棲家として、早くから看取りに取り組んでおり、本人やご家族の意向を十分聞き取り、人のぬくもりのある生活を最期まで送ってもらえるよう訪問看護師、往診医師と協同し取り組んでいます。

・毎日のようにご家族の方の面会があり、行事や家族会へも参加など協力していただいています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170100648-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年11月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で意見を出し合いつくった理念があり、いつも念頭に会議などの話し合いの場や日常的な関わりの中で意識して取り組んでおり、グループホームの求められるあり方に沿うよう、毎日の引継ぎで唱和し実践に向けて取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	早朝の町内会の清掃などは人員の問題から参加できないことがあるが、他の行事や近隣の保育園の運動会などは声をかけて頂き入居者の方も参加している。買い物なども近所のお店を利用し交流がもてるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	生活が中心となってしまう、積極的に理解を深める勉強会等の開催はないが、過去にご近所の方からの介護相談や見学があり対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第二水曜日と決め、日常の様子や職員の勤務状況、勉強会や取り組みの予定など報告し、意見やアドバイスを全体会議や報告書で職員に周知し現場での反映に向け取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の主催する研修への参加や実地指導、事故報告の他、わからないことなどは問い合わせするなどして協力関係を築くよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会も行い、事業所全体で理念に沿うよう認知症を理解し身体拘束のない日常生活のケアの実践に取り組んでいる。マンション玄関はオートロック式であるが、フロアの玄関は施錠せず、居室も希望者のみ鍵を使っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に互いのケアや声掛けを注意し合い、勉強会でも学ぶ機会を持っている。小さな変色も見逃さないよう申し送りを活用し、ご家族へも報告、原因を職員で話し合い注意し取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加や勉強会でも取り上げて学ぶ機会を作り周知に努めている。必要なケースがあれば活用できるよう家族会でも話題に上げ支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の経緯を聞き取り、入居するにあたっての疑問や不安がないか、又伝えるべき事柄については十分な説明をするよう取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や連絡を取る時には遠慮なく知らせてもらえるよう伝えている。毎年ご家族へのアンケートを実施し意見や要望があれば改善、反映に取り組み、外部機関についての情報も掲示、説明している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で話し合う機会もあり、個別に聞くこともある。人間的な問題が多いが事業所として可能なことは意見の反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本となる給与水準を元に個々の働く姿勢を考慮し、資格の取得や研修等の支援に取り組み、向上心を持って働けるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数や経験に合わせた外部研修への参加や新人研修など学びながら働き活かせるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近所のグループホームとの交流があり、中央区グループホーム連絡会にも参加し、意見交換や勉強会を通して交流の機会を持っているが相互訪問の機会が持っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めの聞き取りの他、入居生活を始めてみて不安や要望がないか、暮らす様子から察知できる事柄についても職員間で申し送り情報共有し安心して暮らせるよう支援に取り組み、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る経緯を聞き取り、入居生活が始まる中で家族が抱える問題や不安、要望について共に解決に向けて取り組む関係であることを伝え信頼してもらえるよう聞き取りながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせ、見学時にどのような状態で入居を希望されているのか聞き取り、他のサービスの利用も選択肢に当てはまれば情報提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人として相手を理解し、会話や家事作業など様々な場面で知恵や苦労を知ることがあり、共に支え合う関係が築けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念も理解して頂き、日常的に面会や行事の参加も多く、共に支え合う関係が築けている。遠方のご家族とも連絡を取り合い近況報告や相談をしながら絆を大切に考え取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会は多く、親戚、友人、兄妹の来訪もあり外食に出かけたりしている。遠方の方には手紙のやり取りや、電話をかけ仲介する等、関係継続に取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を理解して、職員は場面に合わせて仲介し、生活を共にする仲間であることを感じてもらえるよう意識して一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為退去された方やホームで看取りを終えた方のご家族との交流は今でもあり、ウエスを届けてくれたり、お裾分けなどいつも気にかけて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に思いを引き出せる会話を意識し、本人に聞くことはもちろん、日常の会話や様子からも読みとり、言えないことなどは本人の立場に立って職員間で話し合い、意向の把握に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報の他、生活の様子や会話などで新たな情報が引き出せる話題の提供等、職員は把握に努め共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様々な場面で、その方のできることや苦手なことがあれば記録し情報を共有し現状に合った支援方法の見直しに繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の意向を職員全員で周知し、現状に合う支援内容についてフロア会議で話し合い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録の他、個別に申し送り用紙があり、細かな情報の共有に努めその日、その時の状態に応じた支援ができるよう取り組み、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅時の暮らしが継続できるよう、希望があれば訪問マッサージを利用する方もいる。できる限り柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーやコンビニ、郵便局など利用しており、買い物の際には理解のある対応をいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力病院へ移行される方が殆どですが、診察時に生活状況を伝え、不要な薬についての相談もできる関係が築けている。入居後も今までかかっていた病院に通っている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護を利用しており、それまでの生活状況での心配事項など記録し、適宜相談対応して頂いている。突然の体調不良にも迅速に対応してもらえる環境が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の注意点やご家族の意向など必要な情報を提供をし、出来る限り面会へ行き状態を把握、早期退院に向けて、連絡を取り合い病院関係者との連携に取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・ご家族にホームでできることできないことや今後起こりえる状態の説明をした上で毎年現時点での意向を確認をしている。また重度化した際にはケアプラン作成時にも現状を伝え、主治医との面談の機会を設けて意向の確認をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急処置や高齢者に起こりやすい緊急時の対応について勉強会を行っている。個々の持病を把握した上で予測できる対応についても会議で周知し対応に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っており、夜間想定避難方法や地震発生時の対応について実践している。消防の方からの指導や民生委員の方、ご家族の参加もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の勉強会も行い、日常生活、個々の病状、人格尊重について意識して職員は信頼関係を築きながら適切な言葉かけに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気や思いを聞き取る話しかけの工夫をし、それぞれが自由に過ごせるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお風呂の時間は大体決まっているが、その方の状況に応じて食事時間をずらしたり、入浴したり希望に沿って柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を選び、外出時にはお化粧品や髪をセットするなど普段から身だしなみには注意している。汚れている時には声をかけ替えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえは男女関係なくそれぞれのしたいこと、できることを把握して取り組む機会を大切にしている。準備や片づけも食事は入居者と共に取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分、排泄状況がわかるようになっており、体重や血液検査の結果を把握した上で、食事の量や栄養バランスに考慮し個々に合わせた提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の自立度に合わせて対応し、毎週1回口腔衛生士による指導も受け朝夕、口腔ケアの見守り、介助を行い状態を把握し、必要な方は歯科往診も利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	間に合わない方はパットも利用しているが、基本的に布パンツを使用し、排泄間隔、パターンに合わせて失敗を減らすようトイレの声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝にヨーグルトや牛乳を提供し、繊維質の多いものなど食べ物にも工夫し提供するように努めている。運動の時間もあり、便の状態によって内服している方は調整し個々の排便状況を把握している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な時間は決まっているが、入りたくない時や入りたいと希望がある時にはできるだけ対応するよう努めている。時間以外でも汚染時にはシャワー浴するなど柔軟に対応するよう努力している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠たくなるまでテレビを観たり、不安があって眠れない方は話をしたりして個々に合わせて対応している。夜間の睡眠状況は把握して日中臥床時間を設けたり、ソファでうたた寝する方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服状況を把握し、医師にも現状を報告しながら目的や量について相談するなど必要な服薬支援がされるよう取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の食事、洗濯などそれぞれに役割があり、食材の買い物に出かけや、畑で採れたものの処理など楽しく話をしながら共に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、車で畑へ収穫に行ったり、動物園や小樽水族館など普段出かけないような場所へも行き外出の機会を多く持つよう努力している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方のみご家族と話し合い所持しているが、基本的に買い物へ行く時には立て替え払いとしている。レジでの支払いを入居者の方にしてもらう場面はもつようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節ごとに絵手紙を描いて出したり、仲介しながら電話をかける機会ももつよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて切り絵など皆で作り飾ったり、廊下の写真を変えたりしている。場所の混乱が見られる時には、張り紙をしたり一人ひとりが居心地よく過ごせる工夫に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の好きな場所があり、職員はそれぞれの過ごし方を理解して必要な場面で仲介している。入居者同士互いに声をかけ合い関わりを持ちながら思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みのものを持ってきてもらうよう説明している。居室の配置など安全に過ごせるよう検討し、室温や湿度の確認をして換気をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1階の花壇の水やりやベランダの物干しなど入居者の方と一緒にするなど個々に合わせた自立支援を大切に取り組んでいる。		